

(参考様式5)

(1) 喀痰吸引「実地研修」
口腔内・鼻腔内 吸引（通常手順） 指導者評価票

本票ページ番号	／
---------	---

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。
※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修受講者名	
指導講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目		評価判定				
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア				
	2	手洗いをを行う	ア				
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア				
	4	必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア				
実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	ア				
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア				
	7	口腔内・鼻腔内を観察する	ア				
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	ア				
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	ア				
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア				
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア				
	12	吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア				
	13	吸引チューブの先端の水をよく切る	ア				
	14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア				
	15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア				
	16	適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア				
	17	吸引チューブを静かに抜く	ア				
	18	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア				
	19	洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア				
	20	吸引器の電源を切る	ア				
	21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア				
	22	手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッシを戻す	ア				
	23	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア				
	24	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア				
	25	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア				
	26	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア				
	27	手洗いをする	ア				
報告	28	吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア				
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア				
	30	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け	31	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア				
	32	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア				
記録	33	実施記録を記載する	ア				
アの合計個数			33				
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)			一回の手法において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○			

* 自由記載欄:指導内容を具体的に記述してください。 ※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(1) 喀痰吸引「実地研修」
口腔内・鼻腔内 吸引（通常手順） 指導者評価票

本票ページ番号	/
---------	---

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。
※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修受講者名	
指導講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	/	/	/	/	/
開始時間	10:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定					
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ア					
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4 必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア					
実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	ア					
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア					
	7 口腔内・鼻腔内を観察する	ア					
	8 手袋の着用またはセッションを持つ	ア					
	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
	11 （浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
	12 吸引器の電源を入れて水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
	13 吸引チューブの先端の水をよく切る	ア					
	14 実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア					
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
	16 適切な吸引時間で分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
	17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 洗浄水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア					
	20 吸引器の電源を切る	ア					
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す	ア					
	22 手袋をはずす（手袋を使用している場合）またはセッションを戻す	ア					
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア					
	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	27 手洗いをする	ア					
報告	28 吸引物及び実地研修協力者の状態を報告する	ア					
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）						
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
片付け	31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
記録	33 実施記録を記載する	ア					
アの合計個数		32					
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)		一回の手法において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○				

* 自由記載欄:指導内容を具体的に記述してください。 ※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(3) 喀痰吸引「実地研修」
気管カニューレ内部吸引（通常手順） 指導者評価票

本票ページ番号	／
---------	---

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。
※ 国要綱(H24.3.30社団法人0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。
※ 気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	:	:	:	:	:

実施手順	評価項目	評価判定					
準備	1 医師の指示等の確認を行う	ア					
	2 手洗いをを行う	ア					
	3 必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4 必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア					
実施	5 実地研修協力者に吸引の説明をする	ア					
	6 吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア					
	7 気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する	ア					
	8 手袋の着用またはセッシを持つ	ア					
	9 吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
	10 吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
	11 (浸漬法の場合) 吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
	12 吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
	13 吸引チューブ先端の水をよく切る	ア					
	14 実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア					
	15 適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
	16 適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
	17 吸引チューブを静かに抜く	ア					
	18 吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19 滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア					
	20 吸引器の電源を切る	ア					
	21 吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア					
	22 手袋をはずす(手袋を着用している場合)またはセッシを戻す	ア					
	23 実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24 吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア					
報告	25 実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	26 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア					
	27 手洗いをする	ア					
片付け	28 吸引物及び実地研修対象者の状態を報告する	ア					
	29 吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する(経鼻経管栄養実施者のみ)	ア					
	30 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする(該当する場合のみ)	ア					
記録	31 吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
	32 使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
33 実施記録を記載する		ア					
アの合計個数		33					
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)		一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○				

* 自由記載欄:指導内容を具体的に記述してください。 ※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(3) 喀痰吸引「実地研修」
気管カニューレ内部吸引（通常手順） 指導者評価票

本票ページ番号	／
---------	---

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。
※ 国要綱(H24.3.30社団法人0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。
※ 気管カニューレ内部からの吸引については、特に清潔の遵守が必要。気管カニューレの長さ以上に挿入しない。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	：	：	：	：	：

実施手順	評価項目		評価判定					
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア					
	2	手洗いをを行う	ア					
	3	必要物品をそろえ、作動状況等を点検確認する	ア					
	4	必要物品を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア					
実施	5	実地研修協力者に吸引の説明をする	ア					
	6	吸引の環境・実地研修協力者の姿勢を整える	ア					
	7	気管カニューレ周囲や固定の状態を観察する	ア					
	8	手袋の着用またはセッシを持つ	ア					
	9	吸引チューブを清潔に取り出す	ア					
	10	吸引チューブを清潔に吸引器と連結管で連結する	ア					
	11	（浸漬法の場合）吸引チューブ外側を清浄綿等で拭く	ア					
	12	吸引器の電源を入れて原則として滅菌精製水を吸い決められた吸引圧になることを確認する	ア					
	13	吸引チューブ先端の水をよく切る	ア					
	14	実地研修協力者に吸引開始について声かけを行う	ア					
	15	適切な吸引圧で適切な深さまで吸引チューブを挿入する	ア					
	16	適切な吸引時間で気管カニューレ内の分泌物等の貯留物を吸引する	ア					
	17	吸引チューブを静かに抜く	ア					
	18	吸引チューブの外側を清浄綿等で拭く	ア					
	19	滅菌精製水を吸引し、吸引チューブ内側の汚れを落とす	ア					
	20	吸引器の電源を切る	ア					
	21	吸引チューブを連結管から外し保管容器に戻す、または単回使用の場合は原則として破棄する	ア					
	22	手袋をはずす（手袋を着用している場合）またはセッシを戻す	ア					
	23	実地研修協力者に吸引終了の声かけを行い、姿勢を整える	ア					
	24	吸引物及び実地研修協力者の状態を観察する	ア					
	25	実地研修協力者の吸引前の状態と吸引後の状態変化を観察する	ア					
	26	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないかを観察する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	27	手洗いをする	ア					
報告	28	吸引物及び実地研修対象者の状態を報告する	ア					
	29	吸引後に経鼻経管栄養チューブが口腔内に出てきていないことを報告する（経鼻経管栄養実施者のみ）	ア					
	30	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア					
片付け	30	吸引びんの排液量が70%～80%になる前に排液を捨てる	ア					
	31	使用物品を速やかに後片付けまたは交換する	ア					
記録	32	実施記録を記載する	ア					
アの合計個数			33					
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと（連続3回成功）			一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○				

* 自由記載欄：指導内容を具体的に記述してください。 ※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(参考様式5)

(5) 経管栄養「実地研修」
胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 指導者評価票

本票ページ番号

／

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。

※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	：	：	：	：	：

実施手順	評価項目		評価判定				
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア				
	2	手洗いをを行う	ア				
	3	必要な物品を準備する	ア				
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア				
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア				
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア				
実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア				
	13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
	14	挿入部からの栄養剤（流動食）のものを確認する。	ア				
	15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア				
	16	経管栄養チューブに白湯を注入し、状態を観察する	ア				
	17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
報告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア				
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け	21	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録	22	実施記録を記載する	ア				
アの合計個数			22				
<合格基準> ア)累積成功率が70%以上あること イ)最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)			一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○			

* 自由記載欄:指導内容を具体的に記述してください。

※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(参考様式5)

(5) 経管栄養「実地研修」
胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 指導者評価票

本票ページ番号

／

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。

※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	：	：	：	：	：

実施手順	評価項目		評価判定				
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア				
	2	手洗いをを行う	ア				
	3	必要な物品を準備する	ア				
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア				
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア				
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア				
実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア				
	13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
	14	挿入部からの栄養剤（流動食）のものを確認する。	ア				
	15	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア				
	16	経管栄養チューブに白湯を注入し、状態を観察する	ア				
	17	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
報告	18	注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア				
	19	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
	20	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け	21	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録	22	実施記録を記載する	ア				
アの合計個数			23				
<合格基準> ア)累積成功率が70%以上あること イ)最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)			一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一個でもある → ×	○			

* 自由記載欄:指導内容を具体的に記述してください。

※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(参考様式5)

(6) 経管栄養「実地研修」
経鼻経管栄養 指導者評価票

本票ページ番号

／

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。

※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	：	：	：	：	：

実施手順	評価項目		評価判定				
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア				
	2	手洗いをを行う	ア				
	3	必要な物品を準備する	ア				
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア				
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア				
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア				
実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア				
	13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
	14	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア				
	15	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア				
	16	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
報告	17	実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア				
	18	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
	19	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け	20	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録	21	実施記録を記載する	ア				
アの合計個数			21				
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)			一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一つでもある → ×	○			

* 自由記載欄: 指導内容を具体的に記述してください。

※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

(参考様式5)

(6) 経管栄養「実地研修」
経鼻経管栄養 指導者評価票

本票ページ番号

／

下記評価項目について、どの程度達成できているか該当する記号を記入してください。

※ 国要綱(H24.3.30社援発0330第43号)の別添2に定める審査方法に留意して、修得程度の審査等を行ってください。

評価	ア	1人で実施し、手引きの手順とおりに実施できている
	イ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、実施後に指導を受けた
	ウ	1人で実施しているが、手引きの手順を抜かしたり間違えており、その場で指導を受けた
	エ	1人での実施を任せてもらえない

番号	
実地研修 受講者名	
指導 講師名	

回数	例	回目	回目	回目	回目	回目
実施月日	12/15	／	／	／	／	／
開始時間	10:00	：	：	：	：	：

実施手順	評価項目		評価判定				
準備	1	医師の指示等の確認を行う	ア				
	2	手洗いをを行う	ア				
	3	必要な物品を準備する	ア				
	4	指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する	ア				
	5	経管栄養の注入準備を行う	ア				
	6	準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者のもとに運ぶ	ア				
実施	7	実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する	ア				
	8	注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する	ア				
	9	経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する	ア				
	10	注入を開始し、注入直後の様子を観察する	ア				
	11	注入中の表情や状態を定期的に観察する	ア				
	12	注入中の実地研修協力者の体位を観察する	ア				
	13	注入物の滴下の状態を観察する	ア				
	14	注入中に実地研修協力者の状態を観察する	ア				
	15	注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する	ア				
	16	クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半坐位の状態を保つ	ア				
報告	17	実地研修協力者の状態を観察し、報告する	ア				
	18	体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する	ア				
	19	ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）	ア				
片付け	20	環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする	ア				
記録	21	実施記録を記載する	ア				
アの合計個数			21				
<合格基準> ア) 累積成功率が70%以上あること イ) 最終3回のケアの実施において、不成功が1回もないこと(連続3回成功)			一回の手技において ・すべて「ア」がそろっている → ○ ・「イ」「ウ」「エ」が一つでもある → ×	○			

* 自由記載欄: 指導内容を具体的に記述してください。

※評価結果を総合評価票(参考様式4)に記入すること。

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	
()回目	